

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会  
標準委員会 第16回システム安全専門部会議事録

1. 日 時 2011年11月29日（火） 14:00～16:30

2. 場 所 （独）原子力安全基盤機構 13B, 13C 会議室

3. 出席者（敬称略）

（出席委員） 関村（部会長），更田（副部会長），河井（幹事），阿部（弘），大崎，勝村（15:20出席），門井，河合，北島，黒村，中村（隆），成宮，野中，馬場，久宗，肥田，文能，巻上，真寄，益子（20名）

（代理出席委員） 木下 詳一郎（日立 GE ニュークリア・エナジー/竹内代理），橋本 和典（東芝（株）/及川代理）（2名）

（欠席委員） 福谷（1名）

（オブザーバ） 加藤 眞也（電気事業連合会），黒瀬 直樹（（社）日本電気協会）（2名）

（事務局） 谷井

4. 配付資料

STC16-1 前回議事録（案）

STC16-2 人事について

STC16-3-1 原子力発電所の高経年化対策実施基準の改定（追補3）について（案）

別紙1 東日本大震災（福島事故）に係る PLM 標準の反映の検討状況について（案）

別紙2 経年劣化メカニズムまとめ表（追補3）改定方法見直しにより変更を省略する事項

別紙3 経年劣化メカニズムまとめ表による経年劣化事象の共有及び維持管理スキーム

別紙4 主な改定内容例

別紙5 原子力発電所の高経年化対策実施基準:2010(追補1) 正誤表（案）

別紙6 原子力発電所の高経年化対策実施基準:2011(追補2) 正誤表（案）

STC16-3-2 原子力発電所の高経年化対策実施基準：2012（追補3）（案）

STC16-4 システム安全専門部会における燃料安全を含めた今後の課題とその進め方について（その3）

参考—1 SC-46-2 第15回システム安全専門部会での燃料安全を含めた今後の課題とその進め方（その2）に関する議事要旨2

参考—2 IAEA 標準の PSR と我が国の PSR の比較について

STC16-5 分科会の活動状況について

参考資料

STC16-参考1 システム安全専門部会委員名簿

STC16-参考2 標準委員会の活動状況について

5. 議事内容

事務局から、開始時、委員23名中代理委員も含めて19名が出席しており決議に必要な定足数（15名以上）を満足している旨報告された。

(1) 前回議事録（案）の確認（STC16-1）

河井幹事から、本日配布した議事録（案）は委員に事前送付し、特にコメントが無かった旨

説明があり、議事録（案）は承認された。

(2) 人事

事務局から、資料STC16-2に基づき、分科会の人事について以下のとおり紹介を行った。

a) 委員の退任【報告事項】

PLM分科会

成瀬 昌樹（中部電力(株)）

今村 光孝（日立 GE ニュークリア・エナジー（株））

利沢 隆人（(株) 東芝）

b) 委員の新任【承認事項】

PLM分科会

山田 浩二（中部電力(株)）

大城戸 忍（日立 GE ニュークリア・エナジー（株））

審議の結果、山田、大城戸両氏の選任が承認された。

(3) 【報告及び審議】システム安全専門部会書面投票結果及びその対応案「原子力発電所の高経年化対策実施基準（追補3）」（STC16-3-1～2）

PLM分科会の文能幹事から、資料(STC16-3-1～2)に基づき、書面投票結果及び出された意見への対応案について説明が行われた。

審議の後、本報告資料の別紙1について一部修正するとともに、書面投票におけるその他意見における修正は編集上の修正であり、対応案で標準委員会の書面投票に諮ることが決議された。

主な質疑などは以下の通り。

Q 別紙1について、M-1の40年目の評価の有効性評価似については、記載されているが、1F-1の40年目の技術評価について2月に認可されて3月に事故が発生したことを鑑み、経年劣化に係る規格に反映すべきものがないかを検討すべきである。特に保全実績の評価について。

→拝承

Q 課題として挙げられている項目について、部分的には検討するが、残りについてはどうするのか。

→課題については大きなものを挙げたつもりであるが、PLM分科会で扱えるものには、対応案を記載したが、PLM分科会で対応ができないものについては、上位の委員会で扱ってもらえればと考えている。Q 福島事故の検証委員会でも、個別に部分的なところばかり行っていることが問題の一つに挙げられている。提案形式でもいいので全体の対応案を検討してほしい。

→その方向で検討する。

Q 別紙3の意味は何か。この仕組みが確立したことか。

→そのとおりである。別紙3の裏面に追補2と追補3におけるエキスパート会議からPLM分科会へ情報が提供される矢印においての運用の変更を示している。この変更により、JANT Iの情報をPLM分科会でより透明性を持たせて審議できるようになった。

(4) 【審議】燃料安全を含めた今後の課題とその進め方等(仮称)について( STC16-4)

河井幹事から、資料STC16-4に基づき、前回専門部会での討議の要約及び学協会規格に関する最近の動きを踏まえたうえで、本専門部会で至近かつ緊急に取り組むべき課題について提言があった。提言は①至近に取り掛かるべき標準作成（定期安全レビュー、シビアアクシデ

ントマネジメント、炉心燃料安全性評価)、②システム安全専門部会傘下の分科会の再編と委員の増加又は入替え、③これの進め方に関する関係組織との調整の3点。

質疑応答の結果、既設の原子力発電所におけるシビアアクシデント対策としてのアクシデントマネジメントの整備のためのシビアアクシデント分科会(案)の設置については、名称をシビアアクシデントマネジメント分科会とすること、提案された委員候補以外に委員候補があれば、12月4日(日)までに学会事務局へ委員推薦書を送付し、提案された委員と合わせての委員選任及び承認をメールで行うこと等を条件に、承認された。また、この資料を標準委員会及び学協会規格類協議会に報告すること、至近に取り掛かるべき標準に関する検討の進捗状況を適宜聴取することが合意された。

主な質疑などは以下の通り。

Q他組織との調整はどの程度スパンで考えているか。

→国の検証委員会の報告が来年6月、原子力安全庁が来年4月発足なので、半年から1年程度を考えている。

Q工程で2年は遅いのではないか。

→標準委員会の標準工程でひいているが、国のAM指針の出来具合を横目で見ながら、遅れないように進めていく。

→設立趣意書の工程から月日を除けるか、状況によっては早めると注記してはどうか。

→国の動きもあるので、それに合せて必要な要件で纏めて早めに作る方が良い。

Q深層防護の第4層はプラントワイズであるので、SAM整備をするにはIPEEEが不可欠である。

その辺りはどう書くのか。

→記載する予定。但し、米国も同じであるが、PSAだけでは無理があるので、半定量評価、定性評価も認める書き振り、手法の使い分けの考え方を書く予定。

Q米国流のEDMGは書くのか。

→Secutiryの第3層までは書かないが、第4層はSafetyの第4層と同じ状態なので、機微情報の制約はあるが、書ける範囲で書く予定。

QPSRの前提となる包括安全解析書の導入の働きかけはどの場で行うのか。

→PSR分科会だけでは難しい面もあるが、進め方も議論する。

→原安委で東大法制研が報告して、国はその方向で検討していると聞いている。

(5) 分科会の活動状況について (STC16-5)

事務局から、資料STC14-5に基づき、分科会の活動状況について説明が行われた。

(6) その他

次回：3月2日(金) 13:30～

以上